

「ふるさとを愛し 夢を育む 賢く優しくたくましい子」

- ・(ひ) 人の話をしっかり「きく」ことのできる子
- ・(や) やさしく 思いやりのある子
- ・(く) くじけず 最後までがんばる子
- ・(た) たくましく 健康な子



<http://www.hyakuta.m-alps.ed>

3年ぶりのプール

プール開きを終え、水泳の授業が始まっています。3年生以下の児童は、はじめて学校のプールに入ることになります。高学年児童にとっても、久しぶりの水泳指導となりますので、安全を第一に考えながら進めております。加えてマスクをと



る活動となりますので、こちらについても気を配りながらの授業となっています。私も先日3年生と4年生の授業に参加しましたが、楽しそうな児童の表情が印象的でした。水難事故から身を守るためにも、水に十分慣れることから指導を始めています。※今週は連日WBGT（熱中症指数）が基準値を超え、なかなか思うように入れません…。

仲良く、児童集会

6月29日、児童会本部主催の児童集会が開催されました。新型コロナで止まっていた活動も、感染対策を行う中で少しずつできることが増えてきました。今回は、これから進めていく縦割り班で集まり、自己紹介をしたり、簡単なゲームをしたりして楽しんでいました。この活動が今後の児童会活動や運動会などに生かされていくことでしょう。

学校評価にご協力下さい

本校の学校教育目標は以下の通りです。

『ふるさとを愛し 夢を育む 賢く優しくたくましい子』

【めざす学校像】

- (1) 子どもが生き生きと自分の良さを発揮できる学校
- (2) 子ども一人一人が大切にされ、安心して生活できる学校
- (3) 笑顔とありがとうのあふれる楽しい学校
- (4) 保護者、地域の方々に信頼され、協働して教育活動ができる学校
- (5) 教職員の良さを生かし、前向きに教育活動ができる学校

【めざす児童像】

- 〔ひ〕 人の話をしっかり「きく」ことのできる子
- 〔や〕 やさしく 思いやりのある子
- 〔く〕 くじけず 最後までがんばる子
- 〔た〕 たくましく 健康な子



この目標の実現に向け、日々の教育活動を頑張っております。今年度も、皆様の目に児童の状況や職員の姿はどう映っているのか、本校の教育活動の成果や課題は何なのか、忌憚のないご意見をいただき今後に生かしてまいりたいと思います。皆様から頂いた結果は、二学期に予定されています学校関係者評価委員会に提出し、委員の皆様からも改めてご意見をいただくことになっています。(7/6頃にアンケート用紙配布予定です)

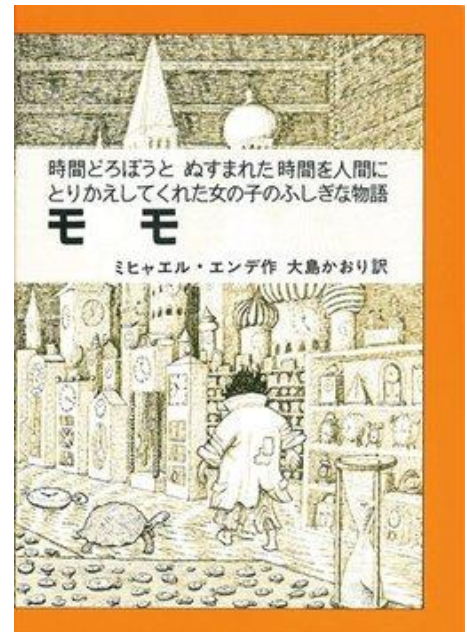
急な見守りやお迎えへのご協力ありがとうございました。今後も、暑さや雷、台風などにより、お願いすることが出てくるかと思いますが、できる範囲でご協力下さい。

ゆっくり、じっくり、心豊かに…時間は宝物

学校の図書館に、ずいぶん古くなってしまいましたが、『モモ 時間どろぼうと ぬすまれた時間を人間にとりかえしてくれた女の子のふしぎな物語』（ミヒヤエル・エンデ作、大島かおり訳 岩波書店）という本があります。

灰色の男たちが登場して、人々に「よい暮らし」をするには無駄な時間を節約することと言葉たくみに信じ込ませて、人間からその時間を盗んでいくという、なんとも奇妙な物語です。

時間を盗まれてしまった人間は、以前よりも良い服が着られ、稼ぎも多くなったが、常に不機嫌で、くたびれた怒りっぽい顔をして、余計なことは一切せず、とげとげしい目つきでもののけに取りつかれたように働いていた。子供たちはというと、細かなところまで至れり尽くせりに作られた高価なおもちゃを与えられ、想像することも失い、仲間と群れて遊ぶこともなくなっていた。ただ「将来のためになる」勉強だけは親に強制されていた。



『人の心はお金で買える』、そんな拝金主義が横行し、何事も無駄なくスピードあることがもてはやされ、市場主義がはびこる、そして他をおもいはかる生き方が影をひそめ、自己中心的言動がはびこる現代社会を、作者は見越していたということであろうか。『時間とはすなわち生活なのです。そして人間の生きる生活は、その人の心の中にあるものなのです。人間が時間を節約すればするほど、生活はやせ細ってなくなってしまうものです。』これは『モモ』という作品に一貫するエンデの哲学である。（「世界通信教育情報」より）この文章は教員向けのものなのですが、筆者は「学校は、時間がゆっくりと流れていて、わくわくするようなことがたくさんあり、子供たちがそれらに夢中になることで、自らの心を豊かに育ててほしいと切に願う」と結んでいます。

コロナ禍の生活で、教師も児童も余裕がなくなってきたように思えます。また、ソーシャルディスタンス確保のため、当たり前前にできていた日常の触れ合いがなかなかできず、少なからず子供たちの生活や心情にも影響が出ていることも推測されます。

『時は金なり』という言葉もあります。時間は止まることなく流れていきます。一瞬一瞬を大切にできるのは本人しだいです。一見「無駄だ」と思われる会話も、何もせずボーと過ごす休憩時間も、一杯のコーヒーも、心を休めたり人間関係を築いたりするための大切な時間なのかもしれません。私などは、無駄話ばかりで周囲の皆さんから引かれがちですが・・・何かと気ぜわしい時だからこそ、子供たちには、ゆっくりと、じっくりと、心豊かに育ててほしいと思っています。学校が少しでもそんな場になっていると感じてくれている子がいるとうれしいです。私たち周囲の大人も、ひと時の現象で評価するのではなく、その子その子の可能性を信じ、見守る姿勢を忘れずにいたいものですね。でも、時には急がせることも大切になるのかな。